

## 設置が容易で安価な3種類の電気防護柵の特徴比較

農業総合研究所

### 要旨

猿害対策用の電気柵は一般的に高価で、設置や取り扱いの難しいものが多いため、企業の協力を得て現地試験を行い、設置が容易で安価な3種類の猿害対策用電気防護柵の特徴比較を行うとともに、設置に要する労力を調査した。

### 成果の概要

- ① 日亜鋼業製「繊維ネット式電気防護柵」
  - ア、最下部の電柵線は、網の側面から間隔をあけて取り付けられているため、漏電しにくく、除草や維持管理がしやすい。
  - イ、上部4本の電柵線は、猿等が電線に触れやすいように段差をつけて取り付けられているため、侵入防止効果が高い。
  - ウ、金属製の部品が多いため、資材が重く設置労力がかかるが、金属部分の防錆加工が十分に行われているため、耐用年数も長い。
  - エ、繊維ネットがイノシシ等によってかみ切られることがある。
- ② 日亜鋼業製「タイトクロス式電気防護柵」
  - ア、繊維ネット式とほぼ同様の特徴を持つが、イノシシ対策用に格子型金網（タイトクロスフェンス）を用いているため、最も単価が高く、設置労力もかかる。
- ③ 近江屋ロープ製「さるさるネット」
  - ア、手に入りやすい資材が多く、ネットに鋼線が組み込まれているので、設置が最も容易で、単価も安い。
  - イ、パッカーを用いてネットを支柱に取り付けているため、積雪時などに取り外しが容易である。
  - ウ、上部に電柵線をさらに4段（0.8m）追加可能である。
  - エ、ネットの目が細かいため、台風などの強風による影響を受けやすい。
  - オ、繊維ネットがイノシシ等によってかみ切られることがある。
- ④ なお、サル等野生獣に対する侵入防止効果は何れも高いと考えられるが、設置1年目での評価であるため、継続した効果検証が必要である。  
 また、平成18年は例年になく大雪に見舞われたため、雪圧によるフェンスの倒壊が一部地域で発生したため、冬季にはフェンスやネットを容易に取り外すことができるような改良が必要との指摘がなされており、現在検討中である。

表 各電気防護柵の特徴と設置労力

電気柵の種類		繊維ネット式電気防護柵	タイトクロス式電気防護柵	さるさるネット(改良版)
販売元		日亜鋼業株式会社	日亜鋼業株式会社	近江屋ロープ
資材費用	本体	962円/m	1,550円/m	1030円/m
	門扉	25,770円(※1)	8,030円(※2)	なし
柵の高さ	全体	1.7m	1.7m	1.8m(0.8m追加可能)
	ネット部分	1m	1m	1.8m
標準電線数		6段	6段	7段(4段追加可能)
設置労力 (柵の規模)		16時間/人 別途※3 (約40m)	24時間/人 別途※4 (約50m)	18時間/人 (約56m)

※1 両開き金網門扉

※2 ゲートハンドル型門扉

※3 3時間/人(門扉の設置)

※4 0.5時間/人(門扉の設置)